

実践的な防災訓練

パターン化した防災訓練からの脱却

山梨大学地域防災・マネジメント研究センター
准教授 秦 康範

本ビデオの目的

- **実践的な防災訓練の必要性**
 - 地震避難訓練
- 防災訓練への「**認識**」を改める

山梨県内での取り組み(アドバイザーとして関与)

- 2011年
 - 管理職研修・教頭研修会
- 2012年
 - 実践的防災教育推進事業
 - 甲府市 貢川小学校, 富竹中学校
 - 道志村 道志小学校, 道志中学校
 - 防災教室
 - 全小中学校の防災担当教員
 - 指導主事研究(総合教育センター)
- 2013年
 - 実践的防災教育推進事業
 - 身延町 下部小学校, 下部中学校
 - 忍野村 忍野小学校, 忍野中学校
 - 防災教室
 - 全小中学校
 - 指導主事研究(総合教育センター)
- 2014年
 - 実践的防災教育推進事業
 - 山梨市 牧丘第一小学校, 笛川中学校
 - 昭和町 西条小学校, 押原中学校
 - 防災教室
 - 全小中学校
 - 初任者研修
- 2015年
 - 実践的防災教育推進事業
 - 甲斐市 敷島北小学校, 玉幡中学校

**実践的防災教育推進事業
7市町村14小中学校**

学校における防災教育の問題点

一般的な災害の知識、防災の知識を学習

しかしながら、

- **地域の災害リスク**について学ぶ機会がない
- 防災訓練が**実際の、実践的でない**

防災訓練の目的

- 誰のため、何のためにやるのか？
- 訓練を行う事が目的になっていませんか？
- 子ども達の**危険を予測し回避する能力を高める**ことが可能でしょうか？

報告書・・・

「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」 最終報告

学校防災のための参考資料
「生きる力」を育む防災教育の展開

2012年7月



文部科学省2014年3月

山梨県学校防災指針（平成26年3月版）

概要編

山梨県学校防災指針 学校の災害対策編 (学校防災管理マニュアル作成指針)

1章 事前対策

2章 東海地震警戒宣言発令時等の対応

3章 災害発生直後の対応

4章 災害からの復旧

山梨県学校防災指針 防災教育指導編

1章 防災教育の在り方

2章 防災教育指導事例・実践例

山梨県教育委員会2014年3月

今後の防災教育

(1)防災教育

～自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くため「**主体的に行動する態度**」を育成する防災教育の推進～

①自らの**危険を予測し、回避する能力**を高める防災教育の推進

1)周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くため「**主体的に行動する態度**」の育成

-
-
-

おはしも

- **おさない、はしらない(かけない)、しゃべらない、もどらない** の災害時の避難行動原則の頭文字をとって『おはしも(おかしも)の約束』として現在の学校で実施される避難訓練でアナウンスされているもの。
- **特に、阪神淡路震災以降、消防庁による教育安全指導のガイドラインにも紹介**されたことで、ここ十数年間で急速に全国に普及。
- **想定しているのは、地下街や映画館などで火災が発生した場合**の避難行動。

従来の防災訓練

- 授業時間中、事前告知
- 教頭先生の校内放送
- 机の下に隠れる→(防災頭巾)→廊下に整列→上履きで校庭→点呼
- 校長先生の講話のポイント
 - 訓練**参集時間**
 - **私語**の注意



児童・生徒自身が、自らの危険を予測し、回避する機会が無い

「自ら考える」防災訓練

緊急地震速報システムを活用した 「自ら考える」防災訓練

- **いろいろな場面設定**
 - 掃除、休み時間
- **抜き打ちで実施**
 - 抜き打ちで訓練を実施することは知らせて良い
- **先生も参加**
- **振り返り**
 - 特定の行動を覚えるのは意味が無い
 - 気づき重視(正解があるような教え方をしない)

抜き打ち訓練：清掃時間(中学校)



抜き打ち訓練：休み時間(図書室)(小学校)



抜き打ち訓練：休み時間(2階廊下)(小学校)



抜き打ち型訓練で抽出された課題

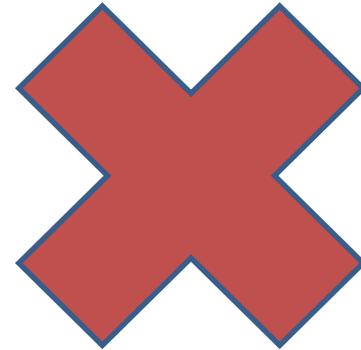
- 従来の防災訓練は、「**自分の教室の自分の机の下に隠れること**」になっていた。
- **緊急地震速報を聞いても、すぐに適切な行動を取ることは難しい**
- **状況に応じて適切な退避行動を取る応用力がほとんど養われていなかった**

大学生のビデオの反応

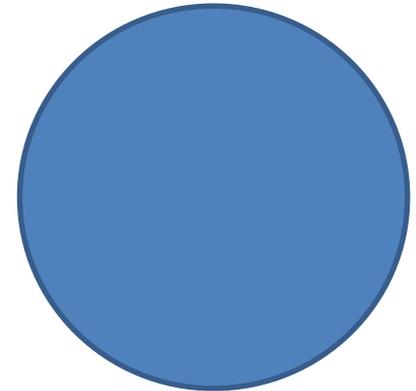
- 「おはしも」を当たり前のように地震の際の基本約束として捉えていたが、よく考え直してみると、**避難訓練の効率化**のためでしかないということに、今日の講義を通して気付いた。
- 一番衝撃的だったのは、ずっと耳たこになるくらいやらされていた**「おはし」の無効力さ**です。
- 避難訓練を**改善すべき**と思った。
- 私は小・中・高校時代、**防災訓練をやる意味はあるのか**と思っていました。というのも、教師側が訓練に対して必死でなかったり、**緊張感がなかったり**と、ひどいものでした。

良い訓練とは？

• 失敗しない訓練



• 課題が見つかる訓練



实际的な状況

- **停電すると校内放送は使えない**
- **季節、天候、液状化、などによりグラウンドが使えない場合もある**
- **土砂災害警戒区域など二次災害の危険がある場所では、その場にいることが危険な場合もある**
- **校舎が耐震化されていれば、校庭に必ず出る必要は無い。一堂に会し、安否の確認を行うため。**
- **保護者への引き渡し訓練のようなことは起こりえない。保護者は直ぐに来ない。来られない。**
- **東日本大震災では、保護者に引き渡した後に、津波に遭遇し、亡くなったケースが少なくない。**

緊急地震速報システムの訓練を通して 学んでほしい事柄

- 防災の基本は、「**自らの身は、自ら守る**」
- 適切な行動は、**災害の種類、TPOによって異なる**
- 「**今、地震が来たらどうすべきか？**」を日頃から考えるようになる。（猶予時間は数秒～十数秒程度）



- **危険を予測し、回避する能力**を高める
- 周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くため
「**主体的に行動する態度**」を育成

おわりに

- **実践的な防災訓練を提案**

- まずは、地震避難訓練のやり方をあらためる
- 退避行動をさせるだけの**ショート訓練**も有効
- 「**身の安全を守る**」ことが最優先すべきこと。おはしもの約束は手段にすぎない。
- 「身の安全を守る」行動は、**状況に応じて変わり得る**。特定の場面の標語の徹底は、**臨機応変な対応を困難にさせる危険**がある。

- **防災教育の防災に留まらない効果**

- 主体性を育む
- 答えの無い問いを考える
- 学習した知識を活用する